

令和4年度 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年3月

事業所名: ゆりかご

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	限られたスペースの中で広く使えるよう配置を考えている。月に1回、体育館または、ホールを借りて運動遊びをしている。	
	②	職員の配置数は適切である	6	0	基準以上に配置	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0	顔写真を使い、見通しが持てるようにしている。スケジュールを視覚化している。	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0	掃除、消毒を丁寧に行い感染症の拡大防止を心がけている。	安全面については、環境の見直しを常に行う事が必要。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	会議にて、問題点や振り返りを行っている。	充分でないため、システム化をする。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0	毎年評価を行い、集計し、保護者に配布。業務改善につながるよう職員間で検討。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	ガイドラインに沿った評価を行っている。ホームページに掲載している。	改善につなげていく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	2	業務改善のため、内部監査の実施。	法人として外部監査実施の検討をする。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	法人の内部研修実施。事業所にて内部研修を定期的に行っている。外部研修への参加。ケース検討を大事にしている。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0	面談や日々の中で保護者の想いを聞き、支援計画に反映している。	アセスメントが適切にできるよう他機関と連携をしていく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	K式検査の結果や報告を活用する。医療の同行等行い、支援につなげている。発達の状況を作成している。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」「家族支援」「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	アセスメント、定期的なモニタリングを行い、ニーズに沿った支援計画を心がけている。(発達支援・家庭支援・地域支援を入れた支援計画を作成)	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	活動や日々の生活の中で組み込むことができるように取り組んでいる。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	計画的に実施。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	こころの安定を図り、プログラムを作成している。五感を使った遊びを考え、子どもたちが楽しむことができるよう心がけている。振り返りを行い、常に見直しをしている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5	1	ニーズに沿って計画を立てている。	常に実践ができるよう職員間で徹底した共有が必要。
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	職員の出勤時すぐに共有できるよう、ホワイトボードを活用。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0	全職員が終礼に参加できないため、翌日に必要事項の共有をしている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	毎日児のケースを記録し、職員で共通認識できるようにしている。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	1	年に3回の面談を実施。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0	児発管や担当が参加している。	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0	連絡会へ参加し、情報の共有、伝達をしている。他機関を連絡を取り、情報共有や相談等を行っている。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	㉕	移行支援として保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	訪問や電話連絡など情報共有を行い、スムーズな移行になる様に心がけている。	
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0	かけはしシートを作成し、学校との引き継ぎの時間を作っている。	
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	連絡会、研修等に参加し、情報共有や勉強をしている。	
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	6	年長児が保育園に数回交流に行っている。(今年度は、中止)	来年度より交流の再開を検討。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	5	0	定期的に関われている事業所連絡会への参加をし、情報共有提供をしている。 自立支援連絡会へのリモート参加をし、地域ニーズを知る事ができるよう心がけている。	
	③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	毎日の連絡ノートで、園での様子を伝えている。また、送迎時に口頭でも伝えるようにしている。	
	③1	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	1	懇談会を実施し、園での様子やかかわりなど伝えている。 「ペアトレ」として行っていないが、保護者と話す場を作っている。	多くの保護者が参加できるようリモートでの参加ができるよう検討していく。
保護者への説明責任等	③2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	説明会、入園時等で説明をしている。いつでも閲覧できるように玄関に置いている。	
	③3	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	計画の内容を説明する時間を設け、同意を得ている。	ガイドラインについて、説明をしていく。
	③4	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	相談しやすい環境を心がけている。懇談会を設け、相談の場を増やしている。支援計画作成時は、保護者の想いを伺う体制をとっている。	
	③5	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	父母会はないが、懇談会や親子行事や懇談会を設け、保護者同士の交流の場を提供している。	
	③6	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	行っている。時間や都合を聞き、申し入れがあった日に対応できるよう心がけている。	適切な対応ができるよう他機関との連携に努める。
	③7	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	月1回のおたよりを配布。クラスでの様子や行事予定など掲載。 懇談会や親子教室時に写真をもとにゆりかごの様子を伝えている。	
	③8	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	同意書を交わすとともに、都度保護者への連絡確認を行っている。	
	③9	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	信頼関係の構築に努めている。	
	④0	事業所の行事に地域住民を招待する等地に開かれた事業運営を図っている	4	2	自治会に加入し、近隣のまつりに参加している。	地域とのかかわりをどのように作っていくか検討が必要。
	非常時等の対応	④1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	入園のしおりに抜粋して掲載。 保護者へ伝言ダイヤルや一斉メールなどの訓練の協力をしていただいている。
④2		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	月1回避難訓練を行っている。	BCPの見直しを定期的実施していく。
④3		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	6	0	入園時、確認を行っている。変更のある場合はその都度報告をお願いしている。	感染症対策においては、今後も見直していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	0	アレルギーがある場合は、保護者から聞き取り、検査結果等提出をしてもらっている。(今年度は該当児がいなかったため、3名未回答)	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	ヒヤリハットマップ作成やヒヤリハットの見直し、共有をしている。ヒヤリハットの内容を分類し、書式を二つに分けた。	対応の見直しや経過の確認が足りていないため、会議にて確認をしていく。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	毎年外部研修や内部研修にて研修の場を確保している。	研修で学んだことに対し、職員間で共有できるようにしていく。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	6	0	運営規程、契約書に記載をし、保護者へ説明をしている。打ち合わせ時に身体拘束について職員間でも共通理解を図っている。	必要時には、同意を改めて得て、支援計画に記載をしていく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。